

ひゅうまにあ 通信

Vol.81
2022.03

Contents

令和3年度群馬ふるさとづくり賞 02
受賞団体決定

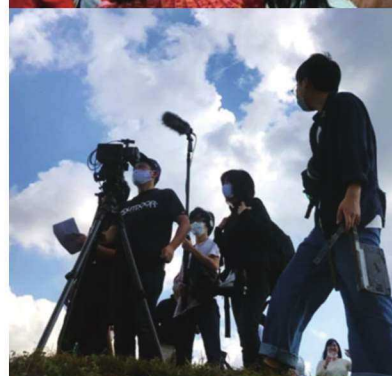
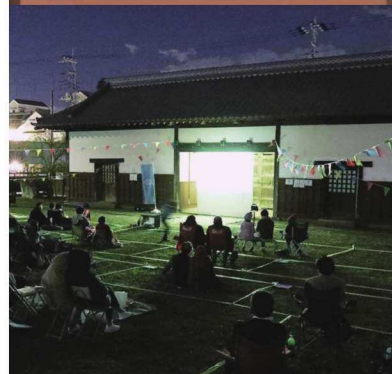
地域づくり実践講座 04

ぐんま地域づくり AWARD 2022 応募団体募集 11
(群馬ふるさとづくり賞)

事務局からのお知らせ 12



群馬ふるさとづくり奨励賞受賞「まきばプロジェクト」





令和 3 年度

群馬ふるさとづくり賞

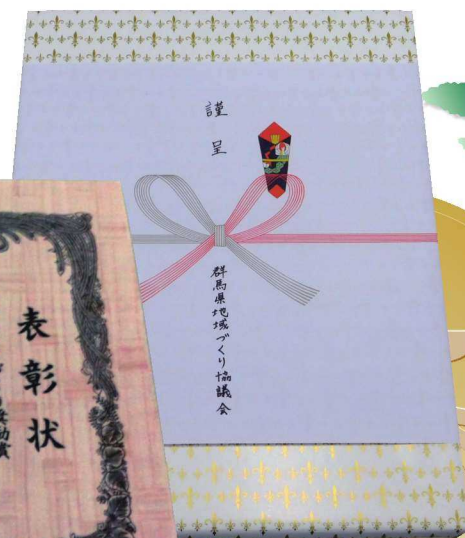
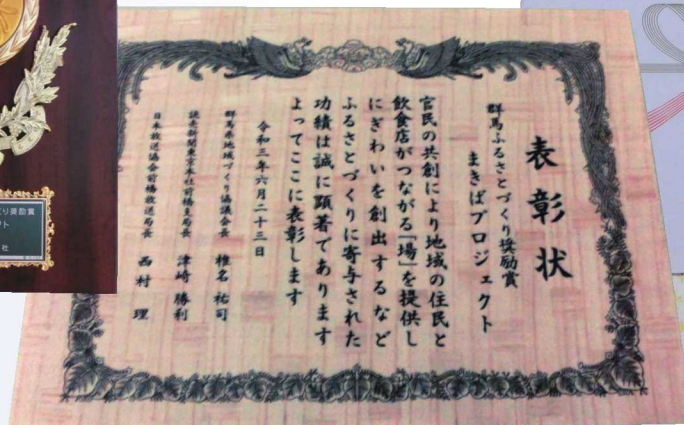
群馬県地域づくり協議会では、「群馬ふるさとづくり賞」を設け、活力ある地域づくりに取り組んでいる優れた団体等を顕彰しています。

本年度は、「まきばプロジェクト」が群馬ふるさとづくり奨励賞に輝きました。

本賞は、地域づくり活動の成果をアピールする機会として、魅力ある地域づくりの更なる進展を図る契機とするため設けているものです。

来年度から、名称を「ぐんま地域づくり AWARD」と新たにし、群馬で地域づくり活動に取り組む団体を一層応援し、支えていく賞となれるようにしていきたい所存です。

群馬県内にて、日頃より地域づくりを頑張られている団体の皆さんからのご応募を、心よりお待ちしております。





群馬ふるさとづくり奨励賞

まきばプロジェクト (伊勢崎市)

代表 秋山 麻紀 氏



この度は素敵な賞をありがとうございました。コロナ禍ということもあり、地域づくりの活動が様々な場面でできない期間が長かったように思いますが、その中でも、地域の方々と手をつなぎ合って、こうした地域づくりができたことは、本当に私の人生の中でも大きな宝物となりました。

しかし、私1人では決してできなかったことで、応援してくださる方々と、行政のお力添えがあって初めてできたことだと思いますので、この賞を、伊勢崎市のお世話になった皆様とも喜びを分かち合って、今後も手を取り合いながら、伊勢崎市の発展に寄与していきたいと思います。



講 評

読売新聞東京本社前橋支局長

津崎 勝利 様

まきばプロジェクト様おめでとうございます。

貴団体が、コロナ禍で苦境に立たされている飲食事業者と、官公庁や事業所の潜在的需要をつなげるプラットフォームを、県内各地に構築されました。

まだまだ県内では馴染みが薄かったキッチンカーによるショップモビリティサービスを県庁や市役所の公共空間に展開した点が、斬新だったと思います。地域住民が助かり、行政も喜ぶ官民共創を出した秋山さんの着眼点。人と人をつなぐ行動力が全審査員から高い評価を受けました。

キッチンカー以外にも飲食店による弁当販売、テイクアウトを利用できる飲食店情報のまとめサイトを立ち上げるなど、多彩な活動に取り組んでおられます。根幹は「困っている人に手を差し伸べる。他人ごとを自分ごと」にしてこられた秋山さんの基本指導姿勢ではないかと思います。

伊勢崎・前橋から、秋山さんの活動を県内全域に、どんどん広げていっていただきたいと思います。この度は受賞、本当におめでとうございます。





オンライン de 地域づくり ネットワーク

令和4年2月4日（金）に地域づくり実践講座を開催しましたので、その様子をお届けします。

第1部 応募団体プレゼン

県内8団体の代表者の皆さまに、それぞれ5分間のプレゼンテーションを行っていただきました。

メイク 地域活性プロジェクト MAYK



2019年11月、邑楽町内の主婦4人で開始した民間団体。「いま私たちができること、いま邑楽町にとって何が必要か」をテーマに活動。

コロナ禍でマスクが市場から消えたため、布マスクの販売会を町商工振興課と実施。その他、マスクとフェイスシールドの製作講座。親子向けのワークショップ、公民館のピロティを使用したキャンドルナイトを開催。

メンバーがマールクレヨンを作ってきたことをきっかけに『マールクレヨンプロジェクト』を開始。邑楽町生涯学習課と協働で町内外からクレヨンを集

め、小学4年生に3RとSDGsを学んでもらう計画を2月14日からスタート。また、総合イベント3フェスの開催などを計画中。

MAYK はイベントの集客宣伝、ネットワークによる企業や人材紹介、小さな町村で活動するメリットを教えることができ、突発的な案件に強いのが特徴。

一方、マールクレヨンを全国展開するための仕組みづくりが課題である。動画編集やITに強い方がいないため、編集能力のある人材を探しており、他地域の団体との情報共有や仲間づくりができればと考えている。

一般社団法人 Kiki



2021年2月に設立。都会と田舎の共存、お年寄りや若者の共存、みんなで協力してみんなで栄えていこうという「共存共栄」が企業理念。3人の現役地域おこし協力隊で構成しているのが特徴で、メインの活動エリアは桐生市の中山間地域「黒保根町」。

協力隊の3年間、個人より3人で協力すれば濃い活動ができる。また卒業後を見据えてビジネス活動することで、収入や収益を見通し定住の意思表示になる。地域活動を継続するための受け皿として法人の設立に至った。



コロナ禍で行き場を失った野菜を軽トラで集めてドライブスルー形式で販売。現在はマルシェの開催や市街地飲食店への納品を行う。また、わたらせ渓谷鉄道水沼駅に併設した温泉施設を「外部目線の経営企画」で建て直しも実施。地域の企業と外部人材の間に入るコーディネーター活動やキャンプ場支援、その他養蚕事業として、石けんの製品開発などを行っている。

この地域と行政・企業の間支援組織であり続けたい。協力隊は間に立ちやすい立場で、自分たちにしかできないことを続けていきたいと思っている。

NPO 法人ソンリッサ



前橋市を拠点に、主に高齢者見守りコーディネートサービスや集いの場といったサロン事業などを展開、地域・企業向けの研修事業なども行っている。

一人暮らし高齢者の会話頻度は「2、3日に1回以下」が4割。またコミュニケーションが取り辛くなっている方が激増している。地域の高齢者や関係者からヒアリングをしながら勉強会を開催。一番の問題は他者から興味関心の目が向かなくなり、行動意欲の減少、役割・居場所が減少し、社会的孤立が進んでいくと捉えている。

まごマネージャーと呼ばれるスタッフが定期的に訪問し



て思いを酌み取り、興味関心チェックリストを活用することで生きがいや社会との接点につなげていくサービスTayory(タヨリー)を開始。事業として継続していくため、地域コミュニティの紹介や各種行政サービスにつなぎ、ご家族にレポートを報告することで収益を得ている。

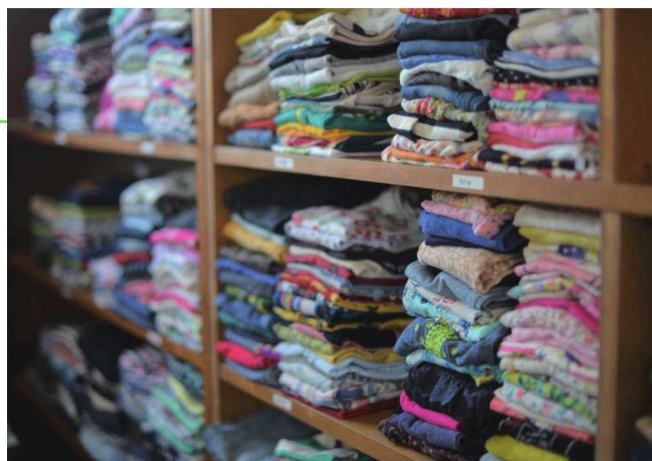
孤立している方同士もマッチングして多様なコミュニティを作り、モデルケースとして広げていきたい。遠方の子供世代の方や企業との連携をしているので、介護離職の防止や福利厚生、従業員の不安解消などの話があれば、お声掛けください。

NPO 法人 Mam' s Style



2.9兆円。これは日本の貧困家庭を放置した場合の経済的損失額。この中には、お子さんの不登校や障害などで働きたくても働けない母子家庭がたくさんいます。次に100万トン。これは1年間に捨てられている衣類の量で、1人当たり33枚です。

地域の方から衣類を提供してもらい、縫製を企業やNPOから請負って収入を生み出し、廃棄物問題を解決する取り組みを行っている。特徴的なのは中間的就労で、個人の事情に合わせた配慮と柔軟な勤務時間で、働く喜びと収入が得られる居場所を提供している。



就労訓練事業所は前橋ではまだ1件のみだが、一般就労でも障害者雇用でもない働き方は、幅広く雇用を促進する手立てとして認知される必要を感じている。まだわずかな家庭にしか届いていないので、知恵を借りて多くの家庭を支えたいと思っている。

本のシェアは非常に身近で、県内図書館の利用者数は23万人、貸出数は800万冊。衣類も仕組みづくりが必要です。さらに経済活動に取り込み、誰1人取り残さない未来を実現していく。そんなアイデア、仕組みを一緒に考えてくれる仲間がいたら嬉しい。

一般社団法人スリージェネレーションズ



任意団体としてまえばしこども食堂を設立し、令和2年度から地域食堂「だれでもキッチン」を運営。食を通してコミュニケーションを楽しみながら地域とつながり、「安心できる居場所をつくる」活動をしている。令和3年7月に一般社団法人化、現在学生を含め35名のボランティアで運営している。

「つながるチケット」の募金システムにより、65歳以上の高齢者と18歳以下の子どもはチケットを利用して無料でご飯と味噌汁が食べられるほか、売り上げは調理担当した方の収入となり、誰もが参加できる



仕組みとなっている。食材は余ったもの、規格外品、見切り品などを利用。フードバンクに提供してもらうことで、フードロスの削減にも役立っている。

また子どもたちに様々な教室を無料で開催。地域支援センターとの連携で高齢者の街角サロンを開催し、誰でも利用できて集える場所となっている。

困ったときに相談ができて必要な支援を受け取れる場所を実現するため、沢山の人たちとのつながりがとても重要です。声なき声も耳を澄まして聞き取り、声や手を差し伸べて寄り添うのが役割だと思っている。

SORANOMON シアター



地域密着型異空館 SORANOMONシアター

SORANOMONシアター 実行委員会
2021.12.14

2018年の「リノベーションスクール@館林」をきっかけに設立。「交流の場」と「カルチャー発信の場」として発信をしていきたい。

長屋門を使って、まち映画を中心とした映画を上映。素人の方も出演していて、普通と少し違ったコミュニティで映画が創られている。駐車場で白い壁に投影しているので、雨天は中止になる。

カフェと組んで、食べ物とチケットとを合わせて販売、ふるさと納税の返礼品にもなった。ツーリズムを推進、建築物のツアーガイドと連携、地域のホテルや



飲食店とのツアーを絡めることも考えている。

車乗で観るのでコロナ禍でも開催しやすいイベントだが、依頼された市で開催した際に、お金が掛かってしまう形となり、継続が難しいのが現状。

自分たちはお金が掛からない形なので、定期開催、年間の援助開発も増やしていきたいと思っている。

今年5月頃にCF(クラウドファンディング)を予定。CFで機材が揃えば、各地域のイベントなどに出張して参加することができます。そこで上映会をできればと考えているので、ぜひお声がけください。

利根沼田夢大学



皆さんの地域では、若者が地域に希望を持っていますか。若者にはこの先の未来があります。そこを変えなければと設立した。

若者が輝く事業「利根沼田ゆめ大賞2017」への参加がきっかけで、中学生が自分たちの夢を形にするプログラム、地域の中で応援団をしてもらう仕組みをつくった。地元学をテーマに、地域のフィールドに出て学ぶ事業を行い、実際に中学校で映画の予告編を制作した。

地域に残る若者が非常に減少してきている。若者に



とって、地域が価値のない、必要のない存在になってしまったのではと危惧している。彼ら自身の未来、世界の可能性も狭めてしまうことになる。

どんな地域が理想なのか、「大切な」経験や「特別な」学びと結びつきが必要だと思った。これをさらに広げて、活動を今後も展開していきたいと思っている。

若者にとって必要なスキルが弱いと思うので、ご支援をいただき、学びを生み出していきたいと思っている。リアルキャンパスを作ることも必要と思っているので、協力者や支援者を増やしていきたい。

藤岡リジャイナかけ橋プロジェクト



令和元年8月藤岡市とカナダ・リジャイナ市がフレンドシップ協定を締結したことを受けて、市民レベルで交流したいと有志4名により発足。「藤岡の日常から気軽に世界とつながろう」をテーマに活動中。

メイン活動は「かけ橋文庫」。コロナ禍前にリジャイナ市から300冊以上の絵本の寄付を受け、市内で読み聞かせ会を開催。4月から市内の小中学校へ貸し出しを始める。谷口真知子さんをZoomでお招きし、英語で絵本の朗読と講演会を開催。二カ国語が飛び交う活発な議論が広がり、相互理解につながった。



市より「ふじの咲く丘」を借りて花壇活動をしている。花を通じて地元の方たちとも交流を深めている。

日本、カナダ、他の国の人たちとの出会いを大切に繋がっていくのが得意。一方、広報活動と資金集めが苦手で、絵本を置ける場所・拠点を探している。藤岡市内で活用できる場所があれば、皆が気軽に寄れる場所を作っていきたい。

海外とつながりを持ちたい団体、絵本の出張読み聞かせやコラボイベントなど、FacebookやInstagramなどを覗いていただき、お気軽にご連絡してほしい。

第2部 団体交流会

第1部の発表団体と参加者で交流会を行いました。

ファシリテーター 河合 将生 氏

NPO組織基盤強化コンサルタント office musubime 代表

伴走支援を専門としながらNPO等の組織基盤強化、組織診断・評価、ファンドレイジング支援、プロジェクト運営・協働コーディネート・ファシリテート等に取り組む。



河合さん

5分では活動に込められた思いや強みなど語り切れなかったかと思います。田村さんのマープルクレヨンがチョコに似ているからバレンタインにスタートって面白いですね。

田村さん（地域活性プロジェクト MAYK）

子どもたちがマープルクレヨンを見て「食べていい？」と聞いてきて、バレンタインも近いので企画しました。15分程度の授業で、補助金を使って町と協働でやります。かわいいとか面白いから、結果的にリサイクルやもったいないなどの大切さ

を自然に学べるようにします。

河合さん

ひとつのクレヨンでいろんな色が使えるのは面白い。色にとらわれない表現ができそうです。

田村さん（地域活性プロジェクト MAYK）

別の活動で、邑楽町のカルタを作っていますが、町の再発見・再発掘のほかに防犯防災メモを入れて地域の安全と安心にも使っています。町の人にも町の良さを知ってもらいたい。MAYK でかるた大会を開いて活性化できたらと思っています。

河合さん

岩崎さん、3人×3年で9年分って面白いですね。地域の間支援組織であり続ける。人と人がつながる仲介役、柔軟な印象を持ちましたが。

岩崎さん（一般社団法人 KiKi）

緩衝材というか、僕らでワンクッションおいて話が転がるのを経験しているので、そういう存在であり続けたいとは思っています。



河合さん

子ども食堂を法人化するべきかどうか悩ましいと意見がありますが。なぜ法人化したのでしょうか。

山川さん（一般社団法人スリージェネレーションズ）

任意団体から始めて法人化しました。1年くらい NPO 法人にするのか一般社団法人にするのかを悩んだ。結局 NPO 法人にしなかったのは主婦や仕事を持たいくつもの顔を持ったメンバーで運営しているので、書類作成に手間をかけられなかった。法人化したのは、企業から寄付を受けた際に任意団体のままだと企業側にメリットがないからです。いただいたらお返しができればと考え法人化しました。社会的な信用度も任意団体より法人化した方があると思いました。



河合さん

個人事業ではなく皆でやろうと思ったきっかけは？

山川さん（一般社団法人スリージェネレーションズ）

誰でもキッチンには誰でも関われないといけなし、皆に責任があるということが第一前提。個人事業ではなく、皆に関わってもらう事が必要だった。

河合さん

地域連携をキーにしている。法人化した方が連携が進みやすかった。

山川さん（一般社団法人スリージェネレーションズ）

ボランティアで人に貢献できるのかが地域の人に不信感にとられていた。法人化することで自治会や地域の人に信頼されるようになった。



櫻井さん（NPO 法人 Mam's Style）

世の中にはモノがあふれすぎている。あふれすぎているモノを私たちの力に変えていけたらいい。資金力などにも生かしていく。子供服はお下がり、シェアする文化があるが、大人ではまだまだ浸透していない。ファッションの力を持って、文化が生まれ、まちを明るくしていける。モノはそのまま使えばそのままの価値しかない。しかし組み合わせたりすることで価値が上がっていくこと。中古だけど様々なモノを組み合わせると価値が上がっていく。自分らしさを表現する。新品の中では見いだせない、中古ならではの価値。

河合さん

皆で新しい価値を見つけていく事って面白い。

河合さん

一緒に何かをやってみたらおもしろいことができそう。

山川さん（一般社団法人スリージェネレーションズ）

田村さんのクレヨンも是非一緒に何かやりたい。子ども食堂にもクレヨンの寄付もしてもらえ。そのクレヨンの形が変わって、子ども食堂に戻ってきたら子供たちが喜ぶと思う。

山口さん（藤岡リジャイナかけ橋プロジェクト）

色が混ざり合うって、文化が混ざり合うって事だと思う。今は開催できていないがホームステイで交流する日本の中学生、リジャイナ市の中学生が持ち寄ったクレヨン混ぜ合わせて目に見える形で融合するのっておもしろいワークショップにできると思う。

河合さん

その場所に高齢者も混ざったらさらにおもしろい場所になると思う。



参加者

同じ県内にいながらどんな団体がいるのかって全然知らなかった。このような機会があり直接いろんな団体の人と話ができて良かった。つながりあえて、知ることができて良かった。

河合さん

花壇は普段誰が手入れをしていますか。

吉田さん（藤岡リジャイナかけ橋プロジェクト）

普段の手入れはメンバーとサポーター、藤岡市の若手職員の方と一緒に手入れをしています。月

1回から2回、季節ごとに花を植えるなどしています。

山口さん（藤岡リジャイナかけ橋プロジェクト）

市役所の花壇でかなり広いので、ガーデニングクラブに相談して「種からなら」とご提供いただき、散歩に来る方にもいただくなど、なるべくお金をかけずに細く長くやっています。



河合さん

水あげについても。

山口さん（藤岡リジャイナかけ橋プロジェクト）

市役所の担当の方と少しずつ関係性を築いてやっています。冬の間はあまりあげていません。みんなで仲良く面倒見ている感じです。

河合さん

色んなつながりがあることがうかがえます。人とのつながりが活動での連携になり、その連携をきっかけに次の場がつくられ、さらなるアクションにつながる。今回の交流会をきっかけにどんな連携につながり、アクションが生まれるか、楽しみにしています。



ぐんま地域づくり AWARD 2022



令和3年度群馬ふるさとづくり奨励賞受賞
まきばプロジェクト

応募団体募集

大賞 8 万円

奨励賞 3 万円
(若干数)

「ぐんま地域づくり AWARD (旧群馬ふるさとづくり賞)」は、群馬県内で独自の優れた地域づくり活動に取り組んでいる団体を顕彰するものです。地域づくり・ひとづくりに取り組んでいるみなさんの活動をレポートにして、ぜひご応募ください！！

詳しい応募方法については、「群馬県地域づくり協議会」ホームページをご覧ください。



【主催】群馬県地域づくり協議会

【共催】読売新聞前橋支局・NHK前橋放送局

【後援】群馬県・群馬県市長会・群馬県町村会



新規加盟団体

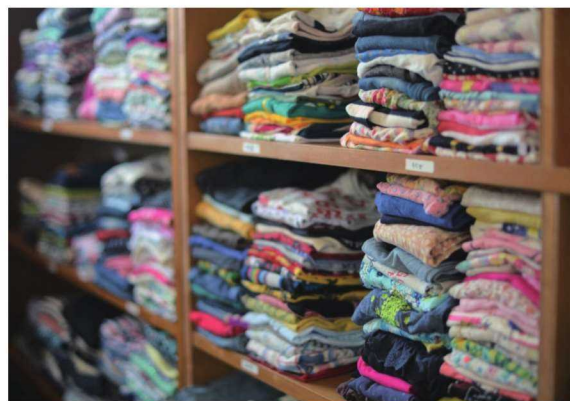
信愛えんがわカフェ

旧信愛幼稚園園舎を地域の方々の交流の場として活かすべく立ち上げられました。身の丈に合った活動が無理なく行うボランティア団体です。子ども食堂やフードパントリー等を行っています。



特定非営利活動法人Mam's Style

店舗兼居場所事業「子育てと仕事楽しむママの家」を運営。「縫製事業」「シャツ1枚のできる循環事業」に取り組み、地域のものと人のリソースをコミュニティ／女性／困窮家庭へ転換し消費し続けられない未来と共生社会を創っている。



tsulunos
GUNMA PREF. STUDIO

群馬県YouTubeチャンネル「tsulunos」

群馬県地域づくり協議会では、「地域づくり講演会」「地域づくり実践講座」「ぐんま地域づくり AWARD(旧群馬ふるさとづくり賞)」など、当協議会で行なっているイベントや顕彰事業などを「tsulunos」にて配信していますので、ぜひご覧ください。

◀◀ 群馬県 YouTube チャンネル「tsulunos」 ▶▶ <https://www.youtube.com/c/tsulunos/featured>

団体情報の変更について

団体代表者、住所、電話番号、メール等、登録情報の変更がありましたら随時事務局までご連絡ください。ご連絡がない場合、事務局からのお知らせが届かないなど、ご不便をおかけすることになりますので、ご協力をお願いいたします。

メール・郵便・電話等で
事務局までご連絡ください！



群馬県地域づくり協議会発行（群馬県地域創生部地域創生課内）
〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1
TEL：027-226-2352（直通）
URL：<https://www.pref.gunma.jp/>

群馬県地域づくり協議会

検索

